

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告  
 連携機関(日本プラネタリウム協議会会員)からの報告

館名	ライフパーク倉敷科学センター	館長名	館長 長谷川 隆三
学校所在地住所	〒712-8046 岡山県倉敷市福田町古新田940 http://www.city.kurashiki.okayama.jp/lifepark/ksc/index.html		
目的	JAXA と協力して、宇宙連詩の編纂を希望する地域学校を支援する。		
目標	活動目標 : 宇宙連詩を主導いただく国語指導教諭との出会い 活動目標 : 地域プラネタリウムならではの参加校への支援 活動目標 : 社会と繋がりをもたせるためメディアへの働きかけ		
<b>具体的な取り組み内容</b>			
時期	取組内容		
準備段階 ~9月	科学館より、市内小中学校を対象に学校宇宙連詩に関心を示してくれそうな学校、および国語指導教諭の勧誘を実施。 具体的には倉敷教育センターを介しリーフレット等の資料を配付し、指導教諭の紹介をいただいた。その結果、中学校1校(1学年)、小学校1校(4, 5学年)から参加への申し出をいただいた。 実施の条件として、JAXA 職員、詩人による「連詩制作」の特別授業を行うことは、初めて連詩を体験する生徒にとって、スムーズに理解を深めるためにも不可欠なものと期待が寄せられた。		
導入段階 10 ~ 11月	開始時期、レクチャの日程調整。 地域メディアに対して、レクチャー開催に関する広報リリースを配信。		
実施段階 12~3月	12月。指導教諭、児童・生徒を対象に、JAXA の共催を得て宇宙連詩レクチャを開催した。		
完成段階	作品を完成させた学校から、JAXA へのデータの受け渡しを実施した。		
<b>社会との繋がり</b>			
宇宙連詩レクチャを地元メディアが取材。 12月4日 RSK山陽放送イブニングニュース 12月5日 山陽新聞 飛べ「宇宙連詩」琴浦中1年生が制作開始			

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告  
協力機関担当者からの報告

倉敷市における学校宇宙連詩

ライフパーク倉敷科学センター  
学芸員 三島 和久

山梨でのすばらしい取り組みの事例は、以前から聞いていた。

学校の子どもたちに宇宙連詩を作ってもらい、作品を国際宇宙ステーションにアーカイブする。子どもたちにとって、学校生活のいい思い出作りになるに違いない。

学校宇宙連詩は正直、素敵な試みだと思った。

科学館を舞台とした科学の取り組みは、知識の伝達や刺激の受け渡しに偏ってしまう傾向がある。科学館利用者の中には、当然、そうしたものに馴染めない人々も少なくないと思う。人間同士の共感を拠り所として、宇宙を感じ、理解し、楽しむという体験を、倉敷の地でも実現させてみることができるだろうか？そんな想いが膨らみ、科学館としてのサポートを希望させていただいた。

天文学の学芸員として「宇宙連詩」は、いかなる天文現象よりも手強い存在である。

宇宙連詩に理解を示し、熱意を持って指導を進めてくれる指導教諭の協力は欠かせない。幸い科学館は倉敷市の教育センターと隣接しており、学校現場に明るい学校関係者の人脈を介して、理想的な学校・教員を紹介いただくことができたことは本当に幸運であった。粘り強く人選にサポートいただいた教育センターの先生方には厚く感謝申し上げたい。

また、調整の中で(1)宇宙ステーションに作品がアーカイブされる(2)詩人による出前授業を受けられるという点に、参加まで至らずとも、多くの先生方に魅力と意義を感じていただいたということも付け加えておきたい。

この3月に2学校3学年の作品が完成した。これまで科学館は調整役に徹したという感があるが、宇宙連詩は多くの人の目に触れ、広く共感し合うことで完成するものだと考えている。今後は科学館として、発表の場、表現の場としての役割を果たしていきたい。